

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600286		
法人名	サン・ミルク株式会社		
事業所名	はとおかざきグループホーム長寿園		
所在地	〒024-0076 北上市鳩岡崎3-32-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に利用者様一人一人のペースでゆったり過ごして頂ける様に心がけています。近くには保育園があり園児と交流をする機会など通し、利用者はいきいきとした表情を見せてくださる。地域とのつながりを大切にし月に1回の「ぼっぼサロン」では地域の方が集える場を提供しています。協力医療機関は24時間365日の相談と対応が可能で、利用者や家族は安心感を持つ事ができている。職員主体では無く入居者おひとりおひとりの自立支援を心がけ、また、生活の中に役割を感じて頂ける様にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、北上市郊外の田園地帯に立地し、落ち着いた色調の建物である。広い食堂に面してゆったりとした中庭があり、居室からの見晴らしも良好である。基本理念とそれに基づく職員の心構えを定め、利用者・家族の意向を十分に取り入れ、利用者に寄り添った安全安心の介護サービスの提供に努力している。利用者と家族のつながりを大事にし、家族と一緒に事業所を守り立てて行きたいと、行事等様々な機会に積極的に声掛けしている。職員は、各種研修やネットを活用した研修など、法人の支援を受け介護技術の向上に取り組んでいる。医療機関と緊密な連携を図り、訪問診療医とは24時間対応が可能で、利用者や家族、職員の安心できる体制となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「職員の心構え」を毎日の朝礼、月に一度の職員会議で唱和して意識付けをしている。倫理研究所発行の冊子「職場の教養」を活用し日替わりの「今日の心がけ」を斉唱する朝礼も行っている。	「基本理念」「職員の心構え」を毎日の朝礼と、月に一度の職員会議で唱和し、意識付けを図っている。基本理念にある「安全安心第一」を重要テーマとし、利用者に寄り添った介護サービスの実践に努力している。	職員は、法人の支援もあり、自らのスキルアップを目指し、ネットを活用して勉強している。事業所として、具体的な活動目標、個人の目標を定め、年間を通じた実施状況の確認、評価に取り組み、職員の勉強の成果を、介護の提供に活かされることを、今後も期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺を散歩しながら行き交う地域の方と挨拶や世間話を交わしたり、近くの保育園児が散歩で施設の前を通る際は必ずお互い手を振り声を掛け合っている。ここ数ヶ月は休止しているが月に一度「ぼっぼサロン」を開催し地域の方が集う場所を提供しお茶を飲みながら会話を楽しませている。	地域包括支援センターからの申し出で、月1回「ぼっぼサロン」を開催している。コロナ禍で4月から中止しているが、地域の方々と一緒に会話やリハビリ体操を楽しむ機会と位置付けている。保育園児が散歩で事業所前を通る際、手を振り合い、利用者は元気を貰っている。地域の方々も参加する事業所主催の夏祭りは、今年は利用者と職員で実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の区長、民生委員、駐在所の方にも参加して頂いており、利用者の方の認知症に伴う症状や対応方法などをお伝えし、「そういう対応をすればいいのか」などといった感想などを頂くこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、利用者の生活状況、ヒヤリハット・事故についての報告を行い助言を頂いている。現在は書面開催とし委員の方に意見等をお聴きしている。防災訓練では水消火器を使用してはどうか？感染予防の対策は大変だと思うが今後も継続でという助言を頂いた。	運営推進会議は5月から書面開催とし、返信用封筒を入れ、委員から意見を頂いている。防災訓練についての意見を頂き、次回取り入れたいとしている。会議には委員として、利用者の代表や江釣子駐在署員等が参加している。会議がマンネリ化してきているので、地域包括支援センターに相談していた矢先、コロナ禍に見舞われ、落ち着いたら工夫していきたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の代行更新や運営に関してわからない事があれば電話や直接窓口で助言を頂いている。地域法価値支援センターjの職員の方には運営推進会議の進め方や内容などの相談をしたところ様々具体的なアドバイスをして頂いた。	要介護認定申請の代行や運営に関して、市長寿介護課に出向いて相談している。コロナ対応で、外に排出するダクトの各居室設置に対する国の補助について案内をいただいている。市から、運営推進会議の進め方について、行事に絡めて開催してはと助言を頂いている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針を作成し、適正会議の際には指針の再確認も含め行っている。帰宅願望が多い方や転倒のリスクが高い方へも、安心できる声かけや環境整備、こまめな見守りを行うなどの対応を行っている。スピーチロックについても定期的に勉強会を行い、普段無意識に使ってしまった不適切な声かけなどを各自で出し合い、それに伴う影響などの振り返りを行った。	身体拘束廃止指針を整備している。身体拘束適正化検討委員会は職員が委員で、身体拘束、ヒヤリハット等の内容を議題に開催している。職員会議で、スピーチロックや動画を活用した研修を実施している。また、不適切な対応を各自出し合い、在るべき適切な対応を検討し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待未然防止」について社内で研修会を行った。事例を通して検討したり、日々のケアの中で不適切な言動が無いように皆で確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する入居者はいないが、今後社内研修でテーマとして取り上げて学ぶ機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には条文をわかりやすいように丁寧に説明を行い、話しやすい雰囲気作りを行い、質問や意見などがあればお聞きしながら納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で利用者の状況報告をしながら要望などをお伺いして反映させている。「介護認定の更新手続きをお願いしたい」「のどごしのよい甘い物や甘酒が好きなのでお茶の時間に出してほしい」などの要望があった。	現在、家族の面会を一定程度制限しているが、通常は面会時や電話で家族から意見要望を聞いている。要介護認定申請の代行やおやつに甘酒を出したりと、家族の要望に応じている。月に1回、広報紙と、担当者が記述した利用者の「月のまとめ」(生活のリズム、エピソード、健康状態、ケアプラン実施状況、次回ケアプラン)を家族に送っている。	

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回統括マネージャーと職員の個別面談日を確保、ざっくばらんに業務上の事についての意向を確認している。仕事上の悩みだけでは無く業務の向上に繋がる様々なアイデアも出され検討し可能な限り運営に反映するようにしている。	統括マネージャーは、毎月職員との個人面談を実施し、業務上の意見を聞いている。お風呂のバスマットを一人一人の専用にしたなどの提案があり、即購入している。職員会議は1時間で、その後勉強会を30分ほど行っている。職員は、ネットを活用し5分でも勉強しており、事業所がそのネット学習の費用を負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態はなるべく負担のかからないように、また希望休を配慮している。適正な給与形態や条件の整備、体調不良時などの勤務変更など職員が安心して意欲的に健康に業務に携われるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修会を様々なテーマで開催するとともに、インターネットでの動画研修を取り入れ、自分の都合のいい時間を使いながら日常的にスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で開催される研修や会議の中で、同業者のケアマネや職員と交流を図り、情報交換などのネットワーク作りを行っている。グループホームへの申し込みなどでケアマネ来られた際は施設の見学などもして頂くこともある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の契約の前に必ずご本人ご家族と面談をさせて頂き、生活歴や意向などを確認しながらお互いの関係作りをした上で、他の職員にも情報を共有し安心して入居して頂くことができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時や電話等でいろいろなお話をさせて頂きながら不安なこと要望などをお聞きしている。何で困っているかなどを一緒に考えながらいい方向につなげていけるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どのような事で困っているのか、どのようなサービスを必要としているのかをお話を伺いながらサービスの導入につなげている。遠方でなかなか受診等に連れて行けない方へ訪問診療を提案し「とても助かった」と言って頂けた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難しいところはお手伝いしながら、できることは積極的に行って頂いている。居室の掃除機がけ、リネン交換、洗濯物干したみ方、植物への水やりなどその方のできる部分を見いだしながらお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけの病院に通院している方はご家族様に協力をお願いしている。ここ数ヶ月は面会の規制をしているが、通常は可能な限り面会に来て頂き会話を楽しんで頂くようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への面会は家族親戚のみならず、入居前からの友人や近隣の方が来られることもある。主治医も以前からのかかりつけの病院に定期的に通われている方もいらっしゃる。ドライブの際は自宅のあった地域を廻って懐かしがられることもある。	ドライブの際、帰宅願望のある利用者の家の近くを通ることもある。2か月に1回の訪問理容とは、馴染みの関係になっている。遠方にいる家族が、かかりつけ医の通院に、外出の機会になればと配慮し、ヘルパー資格のある親戚の方が同行している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や関係性を把握し、座席などの配慮を行っている。レクでは風船バレーやカラオケなどを通して自然と会話を交わしたり交流をしやすい雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談援助をさせて頂く旨をお伝えしている。退去の時など、これからも近くを通った際には気軽に寄っていただけようお話ししている。昨年末、他の施設に移った方のご家族から年賀状を頂いた。		

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思表示をできる方がほとんどで、どのような生活を望んでいるかを本人または家族からお聞きし可能な限り思いを叶えられるようにしている。献立を作成するときは、チラシを見ながら何を食いたいかなどお聞きして取り入れることもある。	日頃使用する日用品や消耗品にこだわりのある利用者には一緒に買い物に行き、韓流ドラマが観たい(ホールで観ている)、ねたきりの利用者が早く皆さんと一緒にお茶できるようになりたい等、意向の把握に努め可能な限り思いが叶えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味特技などを入居前に本人や家族、ケアマネからお聴きし、今までの暮らし方を把握し新しい生活の中につなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの趣味や過ごし方などを把握し、全体会議の際に生活のリズムについて確認している。ある程度の日課は決まっているが強要せずある程度その方のペースに合わせて過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での計画は入居時と3ヶ月毎のアセスメント、毎月のモニタリングを行い見直しと作成を行っている。担当制を取っており、月に一度暮らしの中でよりよいケアをするための気づいた点や様子などを話し合う場を設けている。また主治医や薬局には診察の前に生活の様子を報告しアドバイス等を頂いている。	介護計画は、入居時と3ヶ月毎のアセスメント、毎月のモニタリングで、見直しと作成を行なっている。計画を利用者、家族に説明し、同意を得てサービスを行っている。かかりつけ医や薬剤師に、生活の様子を報告し助言を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の言動や行動、行ったケアについて個別にタブレットや紙に記録し、その場になかった職員を含め全員が把握、共有できるようにしている。薬や処置内容、対応方法など記録を基に周知しケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時には職員が病院へ同行し病院で家族に引き継ぎをするように務めた。面会に来られない方の日用品などこちらで用意するなどの対応を行った。介護殿更新など家族の代行での手続きや認定調査の立ち会いなどを行った。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園から「感謝の集い」に招待して頂き2名参加した。最後お返しの言葉を贈るときには涙ぐまれている。移動図書館を申し込み施設に来て頂いている。感染予防のために車の中までは入らないが希望図書をお聞きし予約で届けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望で6名の方が訪問診療、3名の方が今までのかかりつけ医を継続されている。どちらも診察前には事前に生活及び身体状況の報告をFAX、電話等で行っている。診察の結果は記録し職員で共有している。訪問診療は「月まとめ」で家族へ情報の提供を行っている。	訪問診療医受診が6名で、入居前のかかりつけ医継続の3名は、家族が同行している。訪問診療の結果については、緊急性がない場合は、「月まとめ」で家族に報告している。薬について、薬局の薬剤師が来所し、利用者一人一人に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員から日常での些細な気づきの報告があり医療機関、看護師、薬局等に報告し処置等についてのアドバイスを頂いている。皮膚の異常に関しては主治医へ画像をメールで送り、ケアについて素早い対応を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院したされた際はこちらでの生活の様子、身体状況をお伝えしている。退院が近づいた際には、退院前のカンファレンスに参加し医師、看護師、相談員と可能な限り顔の見える関係作りに努め、入院の間の状況やこちらで生活する上での対応についてお聴きし職員へ周知しスムーズに施設での生活ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合こちらで対応できることと難しいことを説明し納得して頂いている。昨年、重度化が進み医療的な処置が必要になってきた方のご家族、主治医と話し合い家族の意向から別の施設に移った方が1名いた。訪問診療を利用されている方に関しては24時間365日の相談、対応が可能であり、本人家族は大きい安心感を持って頂いている。	入居時に、重度化や終末期について、事業所として対応できないことを伝えている。看取りを希望する場合、かかりつけ医が利用者家族に確認し、同意書を頂いている。看取りが近づいたときに、再度家族と話し合い対応を決めている。看取りはこれまで1名対応している。葬儀では担当者が、弔辞を読んでいる。職員は、医師から看取りについての研修を受けている。	

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が起こった際、すぐにご家族やかかりつけ医に連絡ができるように緊急連絡先を整備している。また急変、事故が起こった際の対応について定期的に研修を行い、いざというときに慌てることの無いようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害を想定した避難訓練を行っている。昨年の11月には区長、自治会長、民生委員の方にも一緒に参加して頂いた。3日分の食料や水の他、反射式ストーブ、カセットコンロ、消耗品などを備蓄し定期的に確認している。	年2回、避難訓練を実施している。6月に、職員と利用者で火災想定訓練を実施している。11月には、消防署立会いで訓練を予定しているが、コロナが終息していない現状では難しいと考えている。食糧や日用品は3日分準備し、定期的に確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れてくると親しさとなれなれしさをはき違えた声かけになりがちなので定期的に接遇についての勉強会を行い人生の大先輩という敬意をもった対応に努めている。居室へ入室の際のノック、トイレや入浴時も羞恥心に配慮した対応を心がけている。	定期的に接遇の勉強をし、敬意を持った対応に努めている。利用者へは「さん付け」で声かけしている。居室に入る際は、必ずノックしている。利用者が食堂にいる場合、居室のドアは閉めているが、寝たきりの方は、利用者の動きを把握出来るようドアを開放している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人に生活する上での選択をして頂くようにしている。お茶の時間の飲み物、おやつを数種類からそれぞれ希望の物を選んで頂いている。入浴の日の着替えはどれにしたいかを職員と一緒に決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間就寝時間、日中の過ごし方などその方のペースに合わせて対応している。主に居室で過ごす方やホールで1日過ごされる方、午睡をされる方塗り絵やパズルをされる方など様々にお一人お一人に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの帽子がある方、その日の気分によって髪型をアレンジされている方がいる。衣類の調整などお手伝いをしながら希望に合わせたおしゃれを楽しんで頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、調理は職員が行っており彩りを心がけ季節に合わせたメニューの提供を心がけている。お楽しみ会では、利用者様主体になってのおやつ作り、母の日にはフルーツバイキング、秋には干し柿作りなど季節によって様々な楽しみを持つことができるように工夫している。	管理者が栄養士で、利用者の好みや旬の食材を意識して献立を作成し、職員が調理している。職員も、同じ食卓で同じ料理を食べている。お正月、ひな祭り、クリスマス、誕生会等、行事に合わせた食事を提供している。月1回は、お楽しみ会とし、利用者中心におやつを手作りし、母の日には、フルーツバイキングを実施した。甘酒は利用者全員に喜ばれ、リクエストされている。	季節や行事に合わせた食事の提供に力を入れている。利用者主体のおやつ作りでは、フルーツバイキングなど楽しむ工夫がされている。今後も、食を通じた様々な取り組みを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分の摂取量についてその都度個別に記録して不足の無いように心がけている。嚥下能力に合わせて刻み、ミキサー、とろみ付け等に対応している。メニューや食材についても1日、前後日を見てなるべく重複しないようにバランスよく食事ができるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアを行っている。義歯を使用している方は外して洗い夜は洗浄剤を使用している。ご自分で難しい方は介助で口腔ケアを行い、スポンジブラシを使用している方もいる。虫歯や義歯の調整で訪問歯科診療を利用されている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行いその方のパターンを把握しトイレへの声かけ、誘導を行っている。排泄状況に合わせてリハビリパンツ、パッド、紙おむつの種類を検討し適切な物を使用して頂いている。排尿排便感覚が薄れてきた方もこまめな誘導でタイミングよくトイレで排泄することが増えた方もいる。	排泄記録を活用し、個別に声掛けてトイレに誘導している。3名は布パンツで自立できている。排泄用品使用の方は、改善に向けて検討している。リハビリパンツと尿取りパット併用の利用者がパットを外して訓練し、最近では、リハビリパンツのみで生活している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を目指し食事には繊維質の豊富な食材、乳製品を積極的に取り入れ水分摂取を充分にできるよう促し、体操等に参加して頂いている。排便状況を主治医に報告し必要時には薬の調整をして頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3~4人を日替わりで週2~3回の個別入浴を行っている。入浴を拒否される方には無理強いはせず、時間をあけて声がけの工夫などを行って実施できている。同性介助を希望される方にはそのように対応している。季節に合わせて脱衣室浴室の温度に配慮し気持ちよく入浴できるように心がけている。自分の好みのシャンプー類を用意されている方もいる。	浴室は、毎日準備しており、利用者は週2、3回入浴している。職員の提案で、利用者一人ひとりの足マットを使用し、衛生面に配慮している。入浴を嫌がる利用者には、工夫しながら対応している。同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡をしたい方にはお部屋でゆっくり休んで頂いている。季節に合わせて居室毎のエアコンで室温調整を行っている。その方の身体状況に合わせて足を高くしたり体位の調整を行い身体に負担無く休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては写真付きの情報をファイルして確認している。薬剤師から飲み方や軟膏の付け方、副作用について説明を頂いている。薬の種類が変更になった際は、その後の様子を主治医薬剤師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた作品作りを通し完成までの毎日の楽しみを作ることが出来るように工夫している。編み物が得意な方には膝掛け作り、カラオケが好きの方には得意な歌などをリクエストし楽しい時間を過ごして頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は散歩や日光浴を行い気分転換を図れる様に心がけた。プランターに花やトマトを植え、皆さんに水やりなどをしていただいた。少人数に分けてのドライブを実施し季節の花を見にでかけたり、家族と通院の際に外食を楽しまれた方もいた。お盆には1名自宅へ2泊された。	6月に、ドライブを兼ね、あじさい見物をしている。秋は、紅葉狩りを検討している。天気のよい日は周辺を散歩し、歩行の機会を絶やさないようにしている。家族と通院の際、外食される利用者もいる。コロナが終息するまでは、中庭など事業所内でできることを増やして行きたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心されるという方には家族の判断で少額を財布に入れて持っている方もいる。		

事業所名 : はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいという場合は職員が手伝いながら電話をかけたり、家族からかかってきた際には静かな場所でお話ができるように繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスは窓を大きく設置し自然光がたっぷり入り、ホールの天井も高く開放的で明るい空間となっている。ベンチソファを置き思い思いの空間で過ごして頂いている。観葉植物、利用者手作りのカレンダーや季節の作品を飾り温かい雰囲気を感じられるように工夫している。エアコンや加湿器での温湿度調整、次亜塩素酸水を使用した空気清浄機で快適に過ごして頂いている。	台所から、利用者のいる食堂を見渡すことができ、安全安心の確保になっている。テラスには、ベンチや椅子が置かれ、外気浴や日光浴を楽しむことができ、中庭では、プランターで花やミニマトを育てており、利用者は水遣りを手伝っている。共用の空間は、次亜塩素酸水を使用した空気清浄機で清潔な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなと一緒に集まって賑やかにおしゃべりやテレビを楽しむ空間と、テラスで外の景色を眺めながら静かにゆったりとできる空間を設けており、そのときそのときの気分でくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には介護用ベッド、エアコン、カーテンが備え付けとなっている。衣装ケースや寝具類は今まで使われてきた馴染みのあるものを持ってきて頂いている。家族の写真や、近くの保育園児からのプレゼント、自分で作った作品などを飾られている方もいる。	居室は、介護用ベッド、エアコン、カーテン、床暖房を備えている。利用者は、寝具、衣装ケースを持ち込み、家族写真など利用者の思い出のものを飾っている。掃除機やモップで自身で掃除している利用者もいる。立ち上がりに不安のある利用者には、床センサーを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりが設置されており、それを利用しながらできるだけ自立した動きを行って頂ける様にしている。トイレにはわかりやすく張り紙をつけている。居室の配置もその方の動線に合わせて動きやすく工夫している。		